

事業名	平成 24 年度能登キャンパスゼミナール事業 「伝統的景観・間垣の継承に関する調査研究」	
実施主体	金沢大学 松下ゼミ	
活動 形 態	活動場所	輪島市大沢地区、上大沢地区
	活動人数	－
	期間	平成 24 年 11 月
活動内容	<p><課題></p> <p>過疎や高齢化などにより、維持管理が困難になりつつある冬の輪島の伝統的景観「間垣」について、学生による保全支援活動を実践する取り組み。材料であるニガタケの伐採、間垣の補修、ニガタケ畑づくりの作業のほか、一般の学生を対象に、一連の作業を組み込んだ地域文化を学ぶツアーを実施。平成 23 年度に始まり、平成 24 年度も継続的に実施した。</p> <p><活動概要></p> <p>とりわけ間垣の維持管理が困難な状況にある大沢地区において活動を実施。住民にヒアリングし、補修作業は高齢者への負担が大きいことや材料であるニガタケが希少なものになりつつあることを確認した。ニガタケの伐採体験は、学生 9 人が主体となり、地域住民と共に取り組んだ。約 2 時間で 450 本を採取し、金沢からの日帰り日程ではほぼ予定通り作業を完了できた。間垣の補修作業は、人手不足などで数年間補修が滞っていた 3 軒を対象に行った。悪天候に見舞われたが、雨具を身に着け学生と地域住民計 20 人で、約 3 時間かけて作業に励んだ。</p> <p>さらに今回は、休耕田を活用したニガタケ畑づくりの可能性を探るため、専門家と共に生息環境調査も行った。ニガタケが育たないのは生息地に人の手が入らず、密に生えすぎたり、葛などの繁殖が原因の一つと判明。ただ、新たなニガタケ畑づくりは、根付いて繁殖する可能性も期待できると、前向きな意見を得た。実際に取り掛かったニガタケ畑づくりでは、初回に移植した分はその後の強風でほとんどが倒木。2 回目はより深く掘った穴に移植し、土を踏み固めて整え、観察を継続した。</p> <p>また、新たな試みである地域文化を学ぶツアーは、日本人学生と留学生計 14 人が参加。「貴重な体験ができた」と大好評に終えることができた。</p> <p><活動成果></p> <p>大沢地区における間垣の維持管理は、過疎・高齢化が進む地域住民の力だけでは限界が近づいており、持続的な支援の仕組み作りが重要であることが明らかになった。さらに、間垣補修作業を通じた学生と大沢地区の交流を今後も継続していくことは可能であり、里山里海保全活動を地域と連携して取り組むことの重要性が見えた。</p>	

事業名	平成 24 年度能登キャンパスゼミナール事業 「ヘルスツーリズム推進の基礎調査：高齢者における日常の身体活動量、下腿筋力および筋厚の季節変動」	
実施主体	金沢大学大学院医学系研究所	
活動形態	活動場所	珠洲市三崎地区
	活動人数	藤原勝夫教授、伊禮まり子、前川真姫、斉藤正浩、Vitaliy Lytnev、外山寛、地域住民 34 名 計 40 名
	期間	平成 24 年 11 月～平成 25 年 1 月
活動内容	<p><課題></p> <p>雪が降り積もる冬の間は、外出を避けて屋内で過ごすことが多いため身体活動量が減少する。それに伴い、下肢筋力も低下し、高齢者においてはさまざまな健康問題を引き起こす要因にもなっている。そこで、冬期における在宅高齢者の身体活動量と下腿筋力の状態を調査した。</p> <p><活動概要></p> <p>農村漁村が広がる珠洲市三崎地区に住む 60~70 代の健常高齢女性 34 人に対し、万歩計と活動記録用紙を用いた身体活動量の調査と、底・背屈力と下腿三頭筋の筋厚測定を 11 月中旬（秋期）と 1 月下旬（冬期）に実施した。活動内容の記録項目を、散歩、外仕事（農業ないし漁業）、スポーツ、外出、家事に分類し、調査期間内における活動内容別の総時間、活動日数、1 日当たりの活動時間を算出した。</p> <p><活動成果></p> <p>活動総時間については、散歩では秋も冬も 6 時間前後で季節による変化がなかった。しかし、それ以外の外仕事、スポーツ、外出、家事の 4 項目については、冬期は半分から 4 分の 1 程度に減り、必然的に減少した可能性が高いと考えられる。活動日数は、外仕事とスポーツの日数が冬期に減少している。歩数については、秋期が 8878 歩±3296 歩であったのに対し、冬期は 7230±3118 歩になり、底屈力は秋期から冬期にかけて 5 キロ前後、背屈力も 1 キロ前後いずれも減少した。この結果により、身体活動量の減少と下腿筋力の低下には大きな相関関係が認められた。</p>	

事業名	平成 24 年度能登キャンパスゼミナール事業 「穴水町の地域環境を活かしたスポーツ・ツーリズム推進の検討」	
実施主体	金沢星稷大学 池田ゼミ	
活動 形 態	活動場所	穴水町
	活動人数	－
	期間	平成 24 年 8 月～平成 25 年 1 月
活動内容	<p><背景・課題></p> <p>平成 23 年に世界農業遺産に認定され、豊かな自然文化の宝庫であることが証明された一方で、過疎高齢化対策が急務な課題となっている能登。研究では、奥能登地域の一つである穴水町を対象に、地域活性化の解決策として、地域環境を活かしたスポーツ・ツーリズム推進の可能性を探る。</p> <p><活動概要></p> <p>野外体験活動調査と総合型地域スポーツクラブへのヒアリング調査を行った。野外体験活動調査では、田植え体験のほか、ボラ待ち櫓の支柱の伐採、設置及び船上作業を通して、それぞれの作業にスポーツ的側面も有していることを確認した。このほか、沖波大漁祭りや穴水町駅伝競走大会など地域の行事にも参加し、地元住民と交流を深める中で、過疎高齢化の影響で祭りやイベントの衰退廃止を危惧している現状を肌で感じた。</p> <p>また、過疎高齢化地域に設置されている県内の先駆的クラブ（NPO 法人クラブパレット：かほく市、NPO 法人もんぜんスポーツクラブ：輪島市）へのヒアリングや、シンポジウムに参加し、スポーツ・ツーリズムの実現には地域の課題を把握することの重要性を再認識した。</p> <p>そして研究では、地域課題解決案として「穴水町総合型地域スポーツクラブ（仮）の設立によるスポーツ・ツーリズムの推進」を提案した。</p> <p><活動成果></p> <p>調査から、スポーツと自然、農林漁業、伝統行事など相互に活用することは、交流人口の拡大や地域の魅力発信の手段として有効であると示し、平成 25 年 2 月 4 日に「穴水町総合型地域スポーツクラブ（仮）設立準備委員会」の設置にこぎつけた。準備委員会のメンバーには学生も加わり、若い視点から設立に向けた意見を提出。地域住民が日常の様々な行動を、身近なスポーツとしてとらえる視点が大切であること、また、地域の取組とスポーツを融合した「総合型地域スポーツクラブ」の認識が町民の間に広まることが地域活性化にもつながるとした。提案の実現に向けては、住民の意識調査など、さらなる具体的なリサーチも必要と分析した。</p>	

事業名	平成 24 年度能登キャンパスゼミナール事業 「能登国町野荘の調査～歴史・里山景観の保全に向けて」	
実施主体	金沢学院大学文化財学科東四柳ゼミ	
活動 形 態	活動場所	能登町柳田地区（旧柳田村）
	活動人数	－
	期間	平成 24 年 7 月 2 日～平成 25 年 3 月 31 日
活動内容	<p><課題></p> <p>平成 23 年度に引き続き、能登町柳田地区（旧柳田村）付近に中世（平安後期～戦国時代）を通じて存在した荘園「町野荘」に関する文化遺産・景観などを調査した。平成 24 年度は町野荘があったとされる推定域内において、中世から水田が形成されていたと考えられる場所を特定するため、灌漑施設を中心に当時の景観を彷彿とさせる地域を探る。</p> <p><活動概要></p> <p>ため池台帳（能登町保管）を基に、水田開発に欠かせない灌漑施設（用水、ため池）や流路などを地図上に落とし込む作業を実施した。柳田地区内の灌漑に大きな役割を果たしている「上井用水」の調査では、2 キロにわたる流路を追跡し、灌漑している水田が町野川の氾濫原になりやすい場所であることなどから近世初期に整備されたと推察された。一方、関連する日詰脇集落東側の水田を潤す日詰脇用水は、その付近の地名が中世文書にも記されていた。さらに用水の施設も簡素で小規模である点が古さを感じさせ、中世から使用されている可能性が高まった。</p> <p>また、活動では、中世史料の記録から確実に水田が存在していたと判断できる場所については、地名や遺跡、現在の集落の配置を手掛かりに町野荘時代の景観の復元を試みた。町野荘に関する絵図類は全く残されていないため、中世文書に記されている情報を基に、柳田地区内に残る中世の農村景観を探す手法を採用。能登町寺分の平等寺に残る天正 15 年（1587）に記された中世文書「本郷平等寺田帳」では、そこに記されている平等寺所有の水田の通称名称 50 カ所を特定しようと試みた。調査では、寺分と隣接する集落の五郎左衛門分に住む 2 氏に聞き取りし、田帳面に記されている 20 カ所の場所を特定することができた。</p> <p><活動成果></p> <p>地区内には、中世からの名残を留める用水も存在する可能性が高いことが分かった。また、寺分・五郎左衛門分集落周辺は、現状の景観と中世の景観にそれほど大きな変化はないということが推察される。今後、詳細な調査を進めることにより、町野荘全体の景観復元の可能性も期待できる。</p> <p>普及活動としては、「中世の景観が見える」をキャッチフレーズに掲げ、説明看板の設置や、荘園推定域内の関連スポットを紹介するパンフレットの常設、荘園体験型ツアーなどを提案した。</p>	